



消防大学校だより

救助科 (第69期)

消防大学校では、平成26年4月14日から6月4日までの52日間にわたり救助科第69期を実施し、全国の消防本部等から選抜された救助業務の指導的立場にある消防職員59名が、寄宿舍生活を送りながら共に学びました。

救助科の教育目的は、救助業務に関する高度な知識及び技術の修得と、救助業務の管理者・指導者としての資質向上を図ることであり、組織の幹部候補として必要とされる知識や心構えの修得を主眼に置いて実施しました。

座学では、救助行政の動向をはじめ、安全管理、現場指揮、リーダーシップ論、NBC災害、惨事ストレス対策等、救助隊長として必要不可欠となる知識の修得に努めました。

実技では、学生が講師となり講義及び実技指導を行う教育指導演習、放水要領を含む火災救助訓練、火災救助現場を想定した救助現場指揮訓練、編みロープを使用した訓練等を実施し、「基本があつての応用」をテーマに基本的技術の再確認から指導技法まで幅広い内容での実科を行いました。

そのほか、校外研修として海上災害防止センターでの

火災消火技術、埼玉県長瀬町での急流救助対策訓練、東京消防庁奥多摩消防署訓練場における山岳救助訓練、東京消防庁第八方面本部訓練場における震災救助訓練を実施し、各機関のご協力により、大きな成果を挙げることができました。

また、救助科企画総合訓練では、近隣の消防5本部を教育支援隊として招聘し、課程を総括する訓練と位置づけて、学生と教官が一丸となって訓練の企画から終了後の検証に取り組み、本課程の教育効果を確認しました。

研修を終えた学生からは、「高度な知識・技術以外にも、忘れかけていた基本の大切さを再認識させていただき大変勉強になった」、「詳細な技術と、知識を習得でき、また指導者としてのスキルを身につけることができるカリキュラムでした」等、教育訓練全般及び学生相互の交流を含めて、総合的に有益であったと評価する意見が多く寄せられました。

今後は、消防大学校で修得した高度な知識と磨きをかけた判断力に加え、全国の仲間から得た情報を活かし、救助業務における指導者及び幹部として全国各地域で安心と安全の確保・維持のため活躍することが期待されます。



救助科企画総合訓練の様子



教育指導演習の様子

危機管理・防災教育科 自主防災組織育成コース (第10回)

消防大学校では、平成26年5月28日から6月3日までの5日間にわたり、危機管理・防災教育科 自主防災組織育成コース (第10回) を開講しました。

本コースは、都道府県、市町村及び消防本部等の自主防災組織の指導・育成担当者が業務に必要な知識及び能力を習得することを目的としています。消防大学校の全課程の中でも、都道府県、市町村の一般行政職員と消防職員とが共に学び、寮生活を送る数少ないコースのひとつです。

カリキュラムの編成にあたっては、地域防災の問題点や課題等の研究と教育・指導技法、訓練手法等の習得を主眼としました。

自主防災組織育成に必要な「教育技法」の講義では、自主防災組織の育成時はもちろん、職場での部下の指導や今後の人生においても大変有益であるという意見が多く、また、「市民防災活動の実際」の講義では、女性の視点から見た「避難所運営」に主眼点を置き、実経験に基づく女性や子供の視点での避難所運営について、今後

の教育訓練や避難所運営に非常に参考になったという意見が多くありました。

課題研究では、行政職員と消防職員とのバランスを考慮した班編制を行い、班ごとに日頃抱えている問題点の中から研究課題を決定し、その解決策を探るため、限られた時間の中で、積極的な討議を行いました。行政職員と消防職員で様々な視点から考えることができ、問題解決の端緒が得られた有意義なものとなり、各関係機関との連携の重要性についても更に認識が深まりました。

研修を終えた学生からは、「消防職員と行政職員との交流を深めることで情報交換ができ今後につなげていきたい」、「他都道府県、他市町村の抱える問題点を共有し、様々な意見を聞くことができ現場で生かせることを多く学べた」などの感想が寄せられました。

今後は、自主防災組織を指導・育成していく上で、消防大学校で得た知識、技術を十分に活用し、それぞれの地域で活躍されることが期待されます。



課題研究の様子



図上訓練の様子

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712